

会 議 録

会議名 (付属機関等名)		第23回(令和3年度第2回)キセラ川西エコまち協議会	
事務局(担当課)		土木部公園緑地課	
開催日時		令和4年3月18日(金) 10時00分 ~ 12時00分	
開催場所		オンライン開催	
出席者	委員	加藤、山中、松村、武田、松塚、中家、中垣、畑中、船木、大島(代理)、篠崎、阪上、宮定(敬称略)	
	その他	(オブザーバー)佐々木、日村、菅(敬称略)	
	事務局	足立、福庭、阪本、渡辺、鈴江、古山、小早川、日置 (調査機関)中川、西本	
傍聴の可否		可	傍聴者数
傍聴不可・一部不可の場合、その理由		0人	
会議次第		1 開会あいさつ 2 報告(前回からの動き) 建築行為等の手続条例運用状況(令和4年2月28日時点) (資料1-1) みどり部会について(資料1-2) 環境学習・普及啓発(資料1-3) 3 議事 「キセラ川西低炭素まちづくり計画」の評価と今後に向けて (検討案)(資料2-1-1、2-1-2) サイン計画について(資料2-2) 4 今後の予定(資料3-1)	
会議結果		別紙審議経過のとおり	

審議経過

<開会>

- ・ 会議の成立、公開、資料、本日の出欠者について事務局より確認した。

1. 開会あいさつ

○土木部長

- ・ 本日は御多忙のところ、また、コロナ禍にも関わらずご出席いただきありがとうございます。
- ・ 当協議会は平成 24 年度設置から 10 年経とうとしており、キセラ川西低炭素まちづくり計画もあと 1 年である。そのため、これからどう総括していくのか、今後この事業をどう評価していくかが問われている。本日は、最終評価と今後に向けてということを主な議題とする。委員の皆さまにおかれましては、活発な議論をいただけたら幸いです。
- ・ また、交通部会で議論いただいた駅から中心市街地であるキセラ川西地区への誘導サインの設置の次年度予算について、3 月 25 日の議会最終日に決定する。今年の 9 月に本市総合医療センターの開院も控えているのでその時期に合わせて取り組んでいくこととしている。引き続きのご協力をお願いしたい。

2. 報告

○事務局

・ 資料説明

建築行為等の手続条例運用状況（令和 4 年 2 月 28 日時点）（資料 1-1）

みどり部会について（資料 1-2）

環境学習・普及啓発（資料 1-3）

○会長

- ・ 3 点ご報告いただいたが、ご議論いただきたい。1 年の間に、コロナ禍の中で、イベントや動きがあったと理解できた。
- ・ 資料 1 - 3 の環境学習・普及啓発の中で、6 ページ以降に、しぜんあそびについて紹介された。4 施設が対象で 1 施設、1 回だけ、5 歳児 10 名程度ということだったが、それに対する保育士へのアンケートということか。

○事務局

- ・ アンケートは、4 施設がしぜんあそびプログラムの参加の意向があり、4 施設の保育士の方全員に、しぜんあそびの趣旨、まちづくりの関連パンフレット、しぜんあそびの講師をやっていただいている「森のムッレ教室」の概要について情報提供を行い、しぜんあそびプログラムに関する事前アンケートを実施したものをとりまとめたものである。
- ・ 今回参加いただいた参加者へのアンケートはこれから実施していく予定である。

○会長

- ・ しぜんあそびを実施した後のアンケートではないということはわかった。

- ・ アンケート結果の母数はいくつか。

○事務局

- ・ 4施設、34名の保育士の方にご回答いただいた。

○会長

- ・ データも収集され、これからもどんどん広げていくということで良いか。

○事務局

- ・ 保育士の方から前向きなご意見をいただいている。PFI事業では次年度あと1回しか実施できないので、それぞれの保育士の方で日常保育で実施していただければと思う。

○会長

- ・ その点が課題である。お金がかかることや保険など安全のことなど大変だと思うが、これらを増やしていった方が良いのではないかと思う。あと1回というのはさびしいという印象である。
- ・ 教育施設へ働き掛けるなど、ぜひ広めていただくといいなという感想である。

○委員

- ・ その点、私も気になっている。今年度は、どういうことを実施するかではなく、どういう風に引き継ぐのかということが重要になる。今の環境学習の件も、令和5年度以降、どのような形で引き継げるのか展開を考えていただくのが重要である。
- ・ こういう啓発事業がなくなったら何も残らないのではなく、令和4年度中に、令和5年度以降の持続可能な取り組みに出来るかを検討いただきたい。

○会長

- ・ 手続条例の運用について、次年度のキセラ川西エコまち建築賞の対象は、4件となるのか。

○事務局

- ・ 先ほど報告させていただいた4件と、前年度の1件とあわせて、今現在で5件が対象となる。

○会長

- ・ 了解した。

3. 議事

「キセラ川西低炭素まちづくり計画」の評価と今後に向けて（検討案）

○事務局

- ・ 資料説明

「キセラ川西低炭素まちづくり計画」の評価と今後に向けて（検討案）（資料2-1-1、2-1-2）

○会長

- ・ 只今、事務局から案として計画の評価と方針について、赤字で記載しているところを中心に説明いただいた。○ ×で確認した上で、総括的に、二次的に総括案を○ ×で評価している。当協議会では、審議の上、この評価を答申し、市としてはその結果をどのように取り扱うのか。誰が評価したということになるのか。協議会か、それとも市か。

○事務局

- ・ 事務局案として協議会で答申していただいて、協議会の評価となる。それを市長へ報告して、市は最終的な評価として、市の報告書として公開していく。

○会長

- ・ 全体的に、自画自賛になっていないか、わかりづらい点がないか、という視点でご意見いただければと思う。エネルギー分野のところ、太陽光発電を全てのゾーンで導入したとあるが、再生可能エネルギーの施設を全てのゾーンに入れたということになるのか。

○事務局

- ・ 資料 2-1-2 資料編の 30 ページをご覧ください。計画当初、キセラ川西地区内を産業・業務ゾーン、集客ゾーン、生活ゾーン、公益ゾーン、住宅ゾーンに区分けしており、全てのゾーンで 1 件以上の事例を創出したということである。

○会長

- ・ ゾーンごとに、1 事例以上ということなので、全ての建物に導入したと受け取られない様な表現としていただきたい。例えば、各ゾーンで導入を実現した、などの表現があると良い。

○事務局

- ・ 計画を作成してから 10 年で再生可能エネルギー分野がかなり進展した。現在でもだが、新築物件への再生可能エネルギー導入が義務化されていない中で、当初、全ての施設への再生可能エネルギー導入を促すのは、難しいと考えていたため、各ゾーン、どの分野においても導入モデルを創出することを目指した。

○会長

- ・ ゾーンごとに性格があり、ゾーンごとにモデルを創出するという意図ではあったと思うが、今になっては過大な評価に受け止められる可能性もあるので、当初の主旨が分かるような表現としていただければと思う。全てのゾーンにふさわしい導入事例を得たという、モデル的な達成をしたということ表現していただければと思う。

○事務局

- ・ 当初の計画目標を達成しているが、過大評価となっていないか、内容については検討したい。

○委員

- ・ キセラ川西地区の魅力付けとして、環境や低炭素を導入するという経緯があり、これまでの取り

組みは正しかったと思うが、この1～2年では、脱炭素化については大きく社会が変わった。

- ・ 大手は研究開発を行い、2030年に40～50%削減を目指している。また、大手だけでなく、サプライチェーン中心に中小企業とも連携し取り組んでいる。
- ・ 当初はこれで良かったが、時代の変化を踏まえると、低炭素化と胸を張って言えず、過大評価はできない。キセラ川西の魅力を維持していくために、どう検討していくのかということもあると良い。

○会長

- ・ 資料2-1-1 4ページにおいて、「再生可能エネルギー導入の機運は計画策定時から高まってきており、継続的な導入の機会をうかがっていく必要がある。」でも良い。しかし、世の中の情勢が変わってきているので、もっと積極的に展開してほしいということが協議会としてのまとめ方になるかと思う。
- ・ エネルギー分野だけでなく、みどり分野も同様に、今後に向けての案は市として控えめな書き方になると思う。しかし、協議会としては、踏み込んだ表現をお願いすることも許されるのであれば、もう少し強く記載しても良いかと思う。

○事務局

- ・ 承知した。

○委員

- ・ 今の件について、脱炭素化を取り巻く社会情勢については、お話のあった通りだが、国が等しくやっていくとともに、地域で最適にしていく必要がある。地域の人が意志をもって、ベクトルをもって頑張ってきて進めてきたということに大変意義がある。再生可能エネルギーが導入された量ではなく、地域で合意形成のもと導入したということが評価できるのではないかと思う。

○会長

- ・ 国のモデル事業は、3～5年で切れる。その後は、自治体の方で、やるべきものを永続的にやる。地域で引き受けていくべきものを整理してモデル事業をブラッシュアップしていくことが重要である。
- ・ 各地域活動へ期待がかけられてくると思う。今後の対応について、協議会の意見はぜひ積極的に書いていただければと思う。市長がまとめるときは、やわらかくなくなってしまってもしょうがない。

○副会長

- ・ 評価の仕方について、3段階での評価になっているが、3段階だと○以外はつけづらいのではないかと。定量的な評価が難しいところもあるが、達成できたかどうかを問題にしてもしょうがないので、達成度を0～5段階で行ってはどうか。まったく達成していないということもあるので、段階評価で形容詞を付けずに評価し、相対的にみて、課題を抽出したほうが評価しやすいのではないかと。ご検討いただければと思う。
- ・ また、今、低炭素が時代遅れになり、脱炭素が主流になってくるので、そのあたりの展望として、当初の目標を変えていくということが書けると良いのではないかと思う。

○会長

- ・ ご指摘の点は、難しい問題である。時代が変わったときにどのように評価するのかルールが必要である。政策評価は計画の土台があり、それに対する評価である。状況が変わったとして目標を変えてしまうと客観的な評価が出来なくなる。3～5年くらい激変しても当初の基準点に対してどうかという評価になる。
- ・ 委員のご指摘はよくわかるが、施策が設定されているので、一時的な○×で評価を行い、グルーピングで再度評価を行うということもできる。また、5段階評価にするということも考えられる。この評価について、前回の協議会でも提示されていたか。

○事務局

- ・ 前の協議会では、評価はお示ししておらず、今回初めてご提示した。今回、事務局で検討して3段階とした。再度検討したい(3段階か5段階か)。

○会長

- ・ 3段階にするか、5段階にするかはあるが、当初の政策目標を変えてはいけない点は順守し、今後に向けて新たな政策目標を立てていただければと思う。

○副会長

- ・ お伝えのし方が良くなかったが、評価のベースは当初の計画案であるべきと思っている。今後の視点について、または、あとがきになるかもしれないが、展望を記載してはと思う。

○会長

- ・ 今後に向けてという欄があるので、PDCAサイクルで行くと、Cのチェックを行い、次のA(アクション)がある。それが今後に向けてである。そこに、今後の施策目標を個別に記載してはどうか。総括に記載してしまうと5分野となると抽象論となってしまうだろう。

○副会長

- ・ 実際に、資料2-1-1 3ページなど、今後に向けて少し記載されているので、他項目についてもそのように記載してはどうかと思う。

○会長

- ・ 3段階か、5段階評価とするかについては、事務局で検討いただければと思う。他にいかがか。
- ・ 細かい点で申し訳ないが、資料2-1-2 2ページ キセラ川西地区内の人口推移について、ここに掲載されている人口や世帯数は、施設集約を評価するデータとして出てきているということだと思うが、評価本文のどこかに記載されているのか。

○事務局

- ・ 計画に具体的な数値目標はなかったので、評価は記載しなかった。評価はしていないが、最終年度に当たって数値化できるものはしていこうと考え、資料には掲載させていただいた次第であ

る。

○会長

- ・ 人口増減数が対前年比であるのか、下の棒グラフは累計であるのか、それらがわかりづらかった。絶対数ではなく、何パーセント増えたかを示すことが、意味があるのではないか。人口増減数に関しては単なる右肩上がりではない。

○会長

- ・ 資料 2-1-1 3 ページ将来ビジョンのところに、評価はあったか。○なのか、 なのか。評価はしないのか。

○事務局

- ・ 他委員から評価について、意義がなければ、次回までに検討したい。

○会長

- ・ さきほどの委員のご指摘もこの将来ビジョンの評価に関わってくると思う。

○委員

- ・ 次年度でまちが終わるわけではないので、今後にどのようにつなげていくのかということが重要だと思う。評価の内容についての異議はないが、PDCA サイクルの C (チェック) で終わるのではなく、A (アクション) にどのように戻すのが重要だと思う。
- ・ 今後に向けてが、重要な点とすると、「期待される」というのは他人行儀的なので、具体的な施策や市民活動へどうつながるのか、主体的な表現に変えてほしい。

○事務局

- ・ 次回までに修正を行っていききたい。

○会長

- ・ 協議会としてすべきである。ことを答申として出すのは良いが、市として報告書を出す場合は、責任が伴う。あるべき論を全て市の立場から修正、黒塗り文書で出さなければならない可能性がある。
- ・ 微妙なところは、うまく記載いただき、次なるアクションをイメージできるものを今後に向けて、記載いただきたいという主旨かと思う。

○委員

- ・ これまでの議論と同じだが、資料 2 - 1 - 1 の 3 ページについて、コンパクトなまちへの誘導は達成したとあるが、これで終わりなのかという印象がある。
- ・ 中心市街地活性化のエリアをキセラ川西地区のエリアまで広げて、と中心市街地活性化基本計画も変えてきた。引き続き、キセラ川西地区が中心市街地の核として機能するように、コンパクトなまちとして維持していく必要がある。誘導したから OK というのではなく、ここから染み出し、

中心市街地活性化エリア内へ効果が広がっていくような施策を展開していく必要がある。

○会長

- ・ 交通分野における取組みをより推進するため、計画区域を「中心市街地活性化基本計画区域」まで拡大し改訂しているので、表現が難しいかもしれないが、そこに向けての総括と今後に向けて、評価してはというご意見かと思う。

○事務局

- ・ 承知した。

○会長

- ・ コンパクトなまちづくりに関してはもう少し丁寧に行っていくべきである。
- ・ 評価と今後については、いくつかのご指摘を宿題にする。次年度の8月のエコまち協会に修正案を出していただければと思う。

サイン計画について

○事務局

- ・ 資料説明
サイン計画について（資料2-2）

○会長

- ・ 只今のご説明について、ご意見いただきたい。整理すると、サイン計画は交通部会で検討して、成案となっている。成案に対して、部会から意見が4点出ている。その意見は現在の案に盛り込み済みなのか。
- ・ 協議会として、部会案をそのまま承認することは問題ないと思うが、4点の意見への対応をうかがう必要がある。

○事務局

- ・ ご意見いただいた方へは、案について個別に説明を行い、この資料でエコまち協議会に説明する旨を了解いただいている。
- ・ 現在、部会内の4点の意見が資料の中には反映されていない。

○会長

- ・ 部会がなくなるので、「施工調整時にお示しする」など先送りしているものについて、協議会が引き取り、引き続き確認が必要なのかどうか、が問題である。
- ・ 部会の委員は、「施工調整時に検討する」と回答して、了承している。施工時にどうなっているのか、ということはエコまち協議会で議論をする必要があるのではないか。

○事務局

- ・ 交通部会は令和2年度末をもって終わっている。部会で出た意見について沿えるかどうかは、予

算との兼ね合いもあるので、検討・議論いただくのはエコまち協議会になると考えている。

- ・ 検討した結果は今後、エコまち協議会に確認いただく予定である。

○会長

- ・ 最終決定は市だとは思いますが、検討した結果がどのような経過・結果だったのか、エコまち協議会で議論、納得する必要があるということか。
- ・ エコまち協議会は部会の意見を尊重する必要があると思っている。

○事務局

- ・ サイン計画については、検討した内容を令和4年度に向けて予算をとっていき、予算が確定したのち、実施するものについては再度検討する必要があると思っている。その中で、部会で出た意見について沿えるかどうか検討して、エコまち協議会に報告していきたいと考えている。

○会長

- ・ 承知した。令和4年度であれば、エコまち協議会があるから良いが、それ以降となった場合、どのような手続きになるのか、明確にしておく必要があると思い、確認を行った。
- ・ 今後、エコまち協議会で確認していただくということで、サイン計画について、この計画について承認するということと理解した。

○事務局

- ・ 令和4年度に全て看板設置ができるわけではない。令和4年度から順次実施していく。駅から病院案内など先行して実施していきたいと考えている。

○会長

- ・ 本件について、評価の中に記載できないのか。

○事務局

- ・ 交通分野のところに、サイン計画という項目があり、○となっているが、踏み込んで記載することを検討したい。

○会長

- ・ この内容で協議会として承認を行うこととするがよろしいか。
- ・ 異議がありませんでしたので、「サイン計画」を協議会として承認することとします。

4. 今後の予定について

○事務局

- ・ 本日はご議論いただき、ありがとうございました。
- ・ 計画の評価と今後に向けては、本日いただいた意見を踏まえ、最終評価に向けて進めていく。
- ・ サイン計画については、調整を行い、令和4年度より設置を行う予定である。

- ・ 次回のエコまち協議会は、8月頃を予定している。日が近づきましたらご連絡させていただく。

○会長

- ・ エコまち協議会に、5つの項目があるが、サイン計画について記載しなくて良いのか。

○事務局

- ・ 追記したい。
- ・ 改めて、本日はありがとうございました。